

萬世の大路

第19号

平成28年3月1日発行

発行者

歴史の道 土木遺産万世大路保存会
会長 田畑 實

事務局

万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381

題字は村山通雄 元山形県知事

特別寄稿

栗子隧道工事に関する新資料

萬世大路と西南戦争国事犯(その一)

(註1)

(註2)

小形利彦

資料の概要



県令三島通庸
(山形市三島神社蔵)

いるのを見たとき、この資料が山形県内はもちろん全国の三島研究者が一度も目にしたことのない資料であること、を確信した。都城市教育委員会の許可をいただいたので紹介したい。

図左から『山形流瀆日誌』(一七cm×八cm厚さ一cm七九頁)『羽前国帰路日誌』(二二・五cm×八・五cm厚さ〇・五cm



左: 山形流瀆日誌
中: 羽前国山形帰路日誌
右: 山形論中雑集

三島県令の土木工事資料は『山形県史』(明治初期下三島文書)や『山形県議会八十年史』(I明治篇)に詳しいことは周知の通りである。私は鹿兒島市や都城市を訪れて三島県令に関する資料調査を行う機会に数回恵まれた。都城市都城歴史資料館で木箱に入った『山形流瀆日誌』(註3)が展示されて

三五頁)『山形論集雑記』(一七cm×八cm厚さ一cm八九頁)紹介にあたり出身地は旧藩名で、日記風に表現を一部修正した。

鹿兒島県が編纂した『丁丑乱概』(明治十二年)には戦死・死生の報告が無い者五二八名、懲役刑一四八八名とあり『西南の役薩軍口供書』(小野寺鉄之助)に懲役受刑者の約七割にあたる一〇五四名の口供書(含む野村綱雄・除族の上懲役三年)が収録されている。国事犯として刑が確定した者は各地の監獄署などに収監された。

資料は野村綱雄が記述した一つで和紙に毛筆で書かれた日記(写真)である。非常に保存状態のよい資料で寄贈後も木箱に入れたまま保管された。

(註1) 西南戦争

薩摩士族は、戊辰戦争など維新まで、大きな人的・経済的な犠牲を出してきたが、維新が成就した途端、政府に登用された一部の者は高給と権力を得、大半は何の褒美もなく国許に戻り旧来の生活に甘んじ、その後武士の身分秩禄も奪われ、政府側の人間は許せないという感情があり鹿兒島県と政府は対立し、一触即発の状態にあった。

西郷隆盛は、政府の考えにあわず官職を辞し鹿兒島に戻り、いつかくる国難と政府改革をめざし私学校を設立した。政府は、鹿兒島の動きを探るスパイを潜入、西郷の暗殺計画、陸軍火薬庫への襲撃・等々の事件十族の政府への不満などから西郷は、『今般政府に尋問の筋これあり』と明治10年拳兵し東京にむけて進軍を開始した。

西郷軍3万人と武器の性能・近代的戦法に優れた政府軍7万人との熊本城近くの田原坂の戦いで西郷軍は敗退し西郷は鹿兒島に戻り城山で自刃した。(享年51才)



(註2) 国事犯

国家の政治的秩序を侵害する犯罪。例えば内乱罪の類。

(註3) 流瀆(りゅうたたく)

罪によって遠方に流されること。流刑。(註・文責 田畑)